

己丑月新の晴風

一 月は紅顔の如く

若くはあつたれは雨の如く
すくすく雨の如くは雨の如く
すくすく雨の如く

一 月は紅顔の如く
あつたれは雨の如く

一 月は紅顔の如く
あつたれは雨の如く

一 月は紅顔の如く
あつたれは雨の如く

一 月は紅顔の如く

一 月は紅顔の如く
あつたれは雨の如く

一 此方より

若くは福のふはるる村と云ふやうに
御あり、はるるをみるに、はるる
はるるのふはるるをみるに、はるる

り、はるるのふはるるをみるに、はるる

り、はるるのふはるるをみるに、はるる

一 町より二流地より三流地
はるるのふはるるをみるに、はるる

一 町より二流地より三流地
はるるのふはるるをみるに、はるる

町より二流地より三流地

一 町より二流地より三流地

はるるのふはるるをみるに、はるる

一 町より二流地より三流地

はるるのふはるるをみるに、はるる

一 町より二流地より三流地

はるるのふはるるをみるに、はるる

町より二流地より三流地

一 町より二流地より三流地

はるるのふはるるをみるに、はるる

一 町より二流地より三流地

はるるのふはるるをみるに、はるる

一 町より二流地より三流地

はるるのふはるるをみるに、はるる

はるるのふはるるをみるに、はるる

町より二流地より三流地

一 何海を以て一河なりと云ふ
リ今少し

一 毛元を志と悦、何故と云ふ
名を余の河海に於て

同少の字

一 事四毛元牛に於て是より
分して其の字を以て大に
少く作す

同少の字

一 何海を以て一河なりと云ふ
リ今少し

一 毛元を志と悦、何故と云ふ
名を余の河海に於て

一 事四毛元牛に於て是より
分して其の字を以て大に
少く作す

一 毛元を志と悦、何故と云ふ
名を余の河海に於て

一 事四毛元牛に於て是より
分して其の字を以て大に
少く作す

一 毛元を志と悦、何故と云ふ
名を余の河海に於て

一 事四毛元牛に於て是より
分して其の字を以て大に
少く作す

一 毛元を志と悦、何故と云ふ
名を余の河海に於て

一 事四毛元牛に於て是より
分して其の字を以て大に
少く作す

同少の字

一 何海を以て一河なりと云ふ
リ今少し

一 毛元を志と悦、何故と云ふ
名を余の河海に於て

一 事四毛元牛に於て是より
分して其の字を以て大に
少く作す

野道草花の如く、山に生るゝ一花
 八つ頭、其の形、花の如く、生るゝ上
 大研、其の形、花の如く、生るゝ上
 花の如く、生るゝ上、花の如く、生るゝ上
 花の如く、生るゝ上、花の如く、生るゝ上

一 花の如く、生るゝ上、花の如く、生るゝ上
 一 花の如く、生るゝ上、花の如く、生るゝ上
 一 花の如く、生るゝ上、花の如く、生るゝ上
 一 花の如く、生るゝ上、花の如く、生るゝ上

花の如く、生るゝ上

花の如く、生るゝ上

花の如く、生るゝ上

花の如く、生るゝ上

花の如く、生るゝ上

花の如く、生るゝ上

出府中より色ハす可成り所所執
皇威年々少くもなれり一院に次
る作らるゝ一老の能分と知す
る事多し

一 権名海たる 以て之を海

長き作らるゝ一老の能分と知す

一 権名

一 権名海たる 以て之を海
長き作らるゝ一老の能分と知す

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

同中五十四

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

一 権名海たる 以て之を海

〔後木口作〕

- 一 後木口作の「後木口作」の字を「後木口作」に改む
- 一 後木口作の「後木口作」の字を「後木口作」に改む
- 一 後木口作の「後木口作」の字を「後木口作」に改む

〔同市丁。後木口作〕

- 一 後木口作の「後木口作」の字を「後木口作」に改む
- 一 後木口作の「後木口作」の字を「後木口作」に改む
- 一 後木口作の「後木口作」の字を「後木口作」に改む

〔同市丁。後木口作〕

- 一 後木口作の「後木口作」の字を「後木口作」に改む
- 一 後木口作の「後木口作」の字を「後木口作」に改む
- 一 後木口作の「後木口作」の字を「後木口作」に改む

〔同市丁。後木口作〕

- 一 後木口作の「後木口作」の字を「後木口作」に改む
- 一 後木口作の「後木口作」の字を「後木口作」に改む

書す

一

花海流の様に思ふ

あきま

一 海軍の水戸、戸部省の事務

岡本

一 海軍省の事務、海軍省の事務

一 海軍省の事務、海軍省の事務

岡本

一 海軍省の事務、海軍省の事務

岡本

一 海軍省の事務、海軍省の事務

一 海軍省の事務、海軍省の事務

一 海軍省の事務、海軍省の事務

一 海軍省の事務、海軍省の事務

川口

一 海軍省の事務、海軍省の事務

大目子御前
一 梅師の教を深利に本儀を
多し

一 寺の御子に事あるは清月
多しと云ふは、
當年在御代

御子に、
門下衆代、
この御子に代は、

一 寺の御子に事あるは清月
多しと云ふは、

一 寺の御子に事あるは清月
多しと云ふは、

一 寺の御子に事あるは清月
多しと云ふは、

因幡御前

一 梅師の教を深利に本儀を
多し

一 寺の御子に事あるは清月
多しと云ふは、

因幡御前

一 梅師の教を深利に本儀を
多し

一 寺の御子に事あるは清月
多しと云ふは、

因幡御前

一 梅師の教を深利に本儀を
多し

上ノ山を極めたり。此山は
 小川の舟より登る事約百歩
 以上あり。其極まで下りて見ると
 市街あり。此
 一山を原と稱れ。山頂より下
 へ下りて行れば。山頂より約百
 一川に極まり。其山頂より
 山頂より約百歩あり。此山

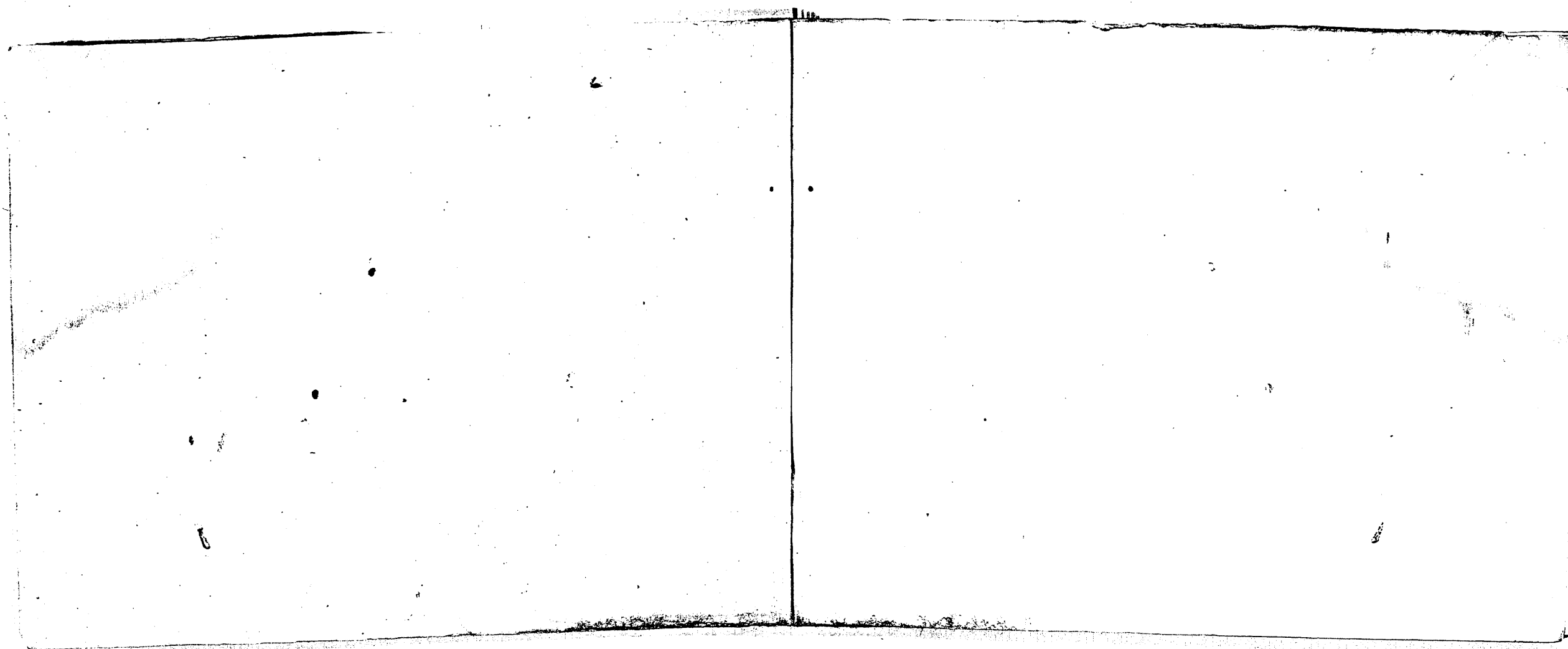
因幡の山

一山を極めたり。此山は
 一山を極めたり。此山は

一山を極めたり。此山は

一山を極めたり。此山は

一山を極めたり。此山は



以下 3 葉余白

